



## カワウ ( *Phalacrocorax carbo* )      ウ科

水に潜って魚を捕えて食べる鳥で、水中で勢いよく泳ぐ姿を見ることが出来ます。全身が黒い鳥ですが、冬には頭と腰が白くなるものもいます。鮎を捕るための鵜飼に使われるのは、少し大きいウミウです。

アフリカやユーラシア、オーストラリア、北アメリカの大陸など、世界に広く分布します。日本では、1970年代に大変少なくなりましたが、その後増え始めて、今では普通に見られます。

写真は、土師地区の中の池で冬に撮影しました。



## ミズカマキリ (*Ranatra chinensis*)

タイコウチ科

名前の通りカマキリに似ていますが、全く別の仲間です。体長4cm～5cmで、国外では台湾、朝鮮半島、シベリア、中国など広い範囲に生息しています。

おたまじゃくしや小魚、昆虫を待ち伏せて鎌のような前肢で捕まえます。針のような口を突き刺して消化液を出し、溶けた肉汁を吸い込みます。尻についた長い呼吸管で息をします。準絶滅危惧種です。

写真は土師地区の中の池で撮影しました。



## クサガメ (*Mauremys reevesii*) イシガメ科

中国原産のカメです。2000年頃までは日本在来のカメと考えられてきました。しかし、日本から化石が発見されていないことと200年前よりも古い文献に登場しないことから、江戸時代に日本に移入された種と考えられるようになりました。

ミシシippアカミミガメより数は少ないようですが、4月になると、ため池で甲羅干しをする姿を見かけます。日本在来のイシガメは須加院川や恒屋川にはいますが、ため池ではまだ見たことがありません。

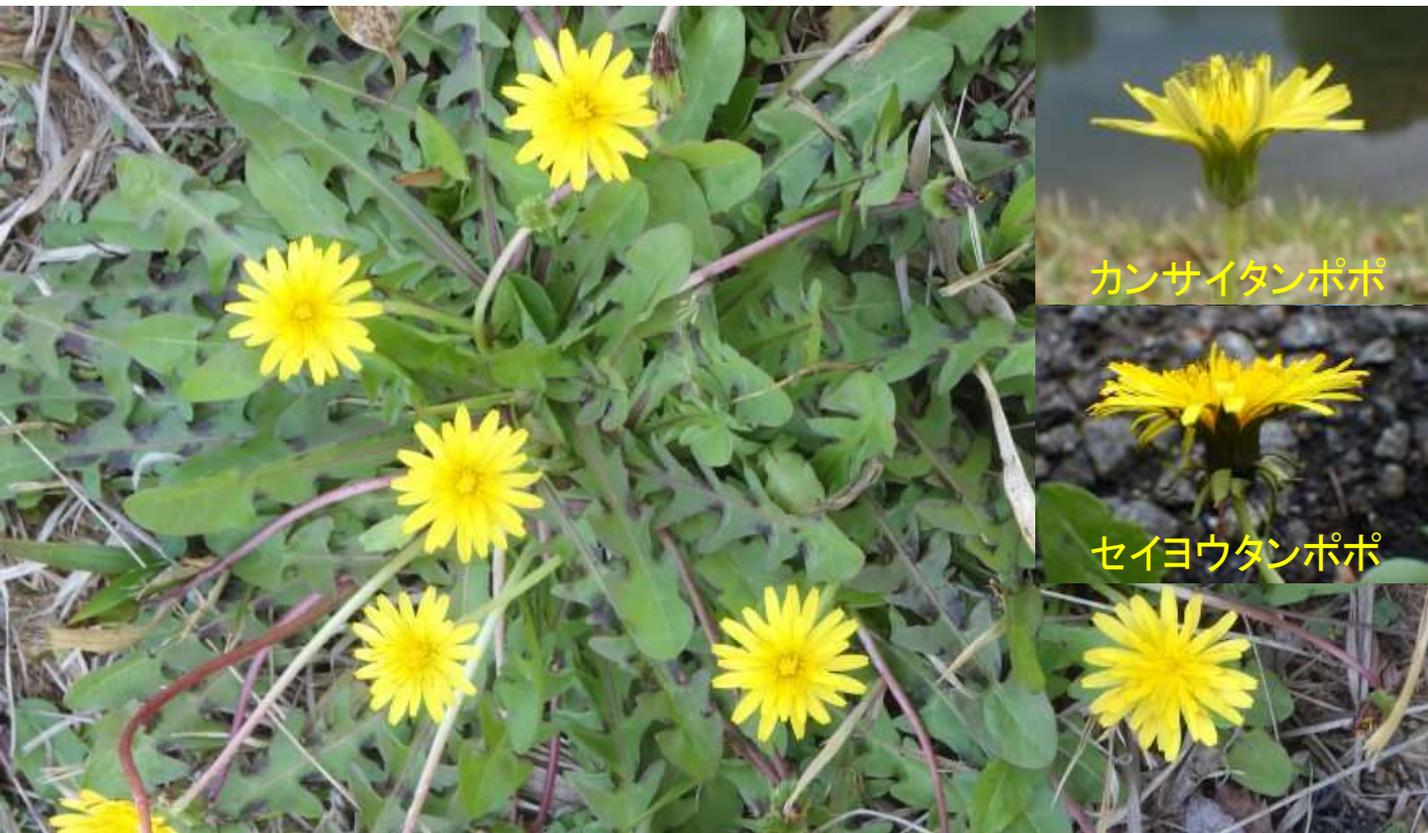
写真は土師地区の中の池で撮影しました。



## クサボケ (*Chaenomeles speciosa*) バラ科

日本原産の野生植物で、本州や四国に分布します。高さ50cmくらいの樹木で、中国から渡来したボケよりも小さいので、草に見立ててクサボケと名付けられました。春と秋に花をつけ、良い香りがする梨のような果実が稔ります。日当たりの良い草地に生える植物で、土師の皿池の堤防で見つかった記録がありますが、今は見当たりません。大切に保護してほしい植物です。

写真は、姫路温室植物園で保護されているクサボケです。



カンサイタンポポ

セイヨウタンポポ

## カンサイタンポポ (*Taraxacum japonicum*)

キク科

4月になると、多くのため池の堤防がカンサイタンポポの花で黄色に彩られます。草刈がおこなわれて日当たりが良くなった、ため池の堤防は草丈の低いタンポポの生育に適しているのです。

カンサイタンポポは、関西地方に分布する日本在来のタンポポです。道端には、移入種のセイヨウタンポポが多く咲いています。セイヨウタンポポは花が大きくて総苞が反り返るので区別することができます。

写真は、土師地区の別所池で撮影しました。